

*** 特定非営利活動法人 CAN 2024 年度事業報告**

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 CAN

1 2024 年度 実施事業のまとめ

従来からの社会的養護アフターケアに加え、自立援助ホーム運営の経験を活かし、ピッケノハコ（居場所提供事業等）運営を継続するとともに札幌市の「困難を抱える若年女性支援事業（通称 LiNK）」にも引き続き取り組んだ。さらに、社会的養護には至らなかったものの、生きづらさを感じている若い方々への総合的な支援に取り組むと同時に、ケアリーバー支援者が集まる学習会に参加するなど、ケアリーバーやその周辺の方々と関わる関係団体との連携を深めた。利用者の方に寄り添い支えることが、人それぞれの多様なあり方として想定される「自立」につながるとの理念を持ち、具体的には以下の 5 つの柱で事業を行った。

(1) 10 代から 20 代の子どもや若者に対する自立支援事業

ピッケノハコを拠点とし、気軽に立ち寄れて自由に過ごせる居場所の提供、緊急的な一時避難所（シェルター）の提供、個別の相談への対応、個人を支える伴走型支援の実施、交流活動を行った。

ピッケノハコは、毎週木曜日と大みそかから正月三が日を除き毎日開室した。前年度は定休日は設けず正月三が日を除き毎日開室していたものの、スタッフの減少などの理由から、場所の安定的な運営のために 5 月からは毎週木曜日を定休日とした。

(2) 啓発事業・アウトリーチ活動

上記事業を広く周知するため、HP、Instagram、X 等、インターネット・メディアを活用するとともに、従来通り、8 月と 1 月にニューズレターを発行した。ピッケノハコ以外の場所での相談活動や同行支援を行った。LINE 登録者は、前年度末の 108 名から 199 名に増加した。また、ホームページは、相談先を探す方にも活用されていることが確認できた。他団体等の依頼を受け、講師を派遣した。メディアの取材を受けた。支援機関、研究者等の見学を受けた。

(3) ネットワーク強化

関連する活動を行う他の民間団体や行政機関と情報交換や連絡を密にして連携を強化した。さっぽろ若年女性支援ネットワーク「Cloudy」に参画して食料品・日用品配布事業や共同研修を行った。上記の活動を実施するにあたり、複数の助成金を活用することができた。

(4) スタッフ養成事業・組織的・財政的基盤強化

安定的な事業実施に向けて、スタッフ研修、組織的・財政的基盤の強化に取り組んだ。定期的にスーパーバイズを受けるとともに、支援の向上、NPO 運営にかかわる外部研修に積極的に参加した。

(5) 札幌市「困難を抱える若年女性支援事業」（以下 LiNK 事業）

札幌市からさっぽろ青少年女性活動協会（以下、活動協会とする）に委託された「困難を抱える若年女性支援事業」のうち居場所提供と自立支援の一部について再委託を受け支援を行った。またアウトリーチ支援として活動協会が実施する夜回りと SNS パトロールに協力した。

2 各事業の実施報告

(1) 10代から20代の子どもや若者に対する自立支援事業

	電話	メール	LINE	来訪	訪問	同行	出張相談	イベント	フード バンク	年賀状 送付	関係機関
2024 年度	155	60	1500	1093	7	15	5	12	—	15	311
(実人数)	(24)	(7)	(62)	(61)	(4)	(11)	(4)				
2023 年度	322	118	1981	1377	42	36	36	16	—	15	503
	(34)	(11)	(86)	(73)	(13)	(21)	(18)				

※2023 年度：1/1～1/3 のみお休み → 2024 年度：毎週木曜定休、12/31～1/3

※2023 年度までは、LiNK 事業に関わることを含めた集計をしていたが、2024 年度集計からは LiNK 事業分は別集計とする。

利用者（以下ハコメンさん）の方々がピッケノハコを知ったきっかけ（2024 年度新規分）

利用者の紹介	関係機関	ホームページ・SNS	イベント	LiNK	不明
12	10	4	2	1	11

① 居場所提供事業（居場所・相談・交流）

ピッケノハコ（以下、ハコ）では、多くの人が構えずに利用できるよう、特に厳密な利用要件を設けていない。また、「相談窓口」という位置づけを明確にしていないが、日常的な利用を通じて少しずつ関係性を構築し、必要が生じた時に他の支援機関や行政機関への橋渡しを行ってきた。そのため、必要な時に速やかに繋がれるよう、関係諸機関とも緩やかな連携関係を維持した。支援機関への相談にハードルの高さを感じている人が支援機関に繋がるためのスプリングボードとして、またすでに医療など支援機関につながっている方が、継続して支援を受けるための支えとしての役目も果たすことができた。

- 無料で利用できる通所の居場所として一年を通じてハコを開室し運営した。開室日の安定的な居場所運営のため、5 月からは木曜日を定休日とした。
- 開室時間帯は、前年度同様、平日は 11 時～17 時、土日・祝日は 14 時～20 時までと、平日の夜間利用の希望に応じて、月に一度通常より開室、閉室時間ともに遅くした「ヨルノハコ」を行った。
- 職員体制は、常勤スタッフ 1 名、非常勤スタッフ 4 名（内 2 名途中退職）、ボランティアスタッフ 1 名であった。ハコ開室時間帯には、原則として、スタッフ 2 名が常駐する状態を維持した。
- ハコの利用対象は、社会的養護出身者、社会生活に困難があり各々の事情で家族からの支援を受けられない方、居場所を必要としている方などとし、実際には、おおむね、10 代から 30 代の方々の利用があった。利用者の居住エリアは、札幌市内が中心だが、近郊自治体からの利用もある。また、他県・他市の児童養護施設等からの問い合わせ、見学もあった。
- 初めてハコを利用する際には、『ピッケノハコによるこそ』シートに氏名や緊急連絡先等を記入してもらい、併せて個人情報の保護についての説明を行い、同意を得ている。
- ハコの利用について予約制はとっていない。「一人で利用したい」「スタッフのみと話したい」といった希望については、原則前日までに連絡を受けて対応した。
- ハコに備品としてテレビ、タブレット、書籍、ボードゲーム、カードゲームなどを用意し、自由に閲覧・利用してもらった。

2025 年度総会資料

- ハコでは、飲み物、お菓子などを常備するほか、要望に応じて軽食を提供した。また、支援者から提供された食料品、衛生用品、日用品を配布したほか、体調不良や経済的に来所が難しい方には、都合のいい場所までお届けした。おてらおやつクラブに加入し、お菓子や飲料の提供を受けた。この場を借りて、改めて感謝したい。

②シェルター事業

シェルター利用実績

	Link 事業	ハコメン・OG
2024 年度	6 名	0 名
2023 年度	6 名	0 名
2022 年度	4 名	2 名

- CAN のシェルター「ヒミツノハコ」を、「困難を抱える若年女性」及び、家庭での居場所を一時的に失っている方の緊急的な一時避難場所として提供した。
- 未成年者の利用はなかった。また LiNK 事業以外での利用はなかった。
- LiNK 事業での利用が 6 件あった。うち 1 件は、前年度にシェルターを利用された方が、レスパイトとして、1 泊された。

③相談事業

相談は、ハコ来訪時の対面相談、電話や SNS 等による相談を主として行い、体調・経済的な事情でハコ来訪が難しいが対面での相談を希望される方には、こちらから出向いて相談を受けた。また、自宅へ伺って、家事のお手伝いをしながら、お話を伺うこともあった。

病院・行政機関同行時、食料配布時に話すなかで、相談に移行する場合もあった。

専門的な支援を要すると考えられる場合には、インターネットなどで一緒に相談先を検索したり、以前からの連携団体の情報を提供したりするなど、橋渡しを行った。

なお、実際には、すでにそうした相談先を知っていても、足を運ぶに至っていなかった方、行ってみたがうまく相談できなかったという場合もある。ハコを利用することで、そうした相談先について一緒に考える過程を経て、相談に向けてのきっかけづくりを支援することも相談事業の一環ととらえて支援を行った。

④同行支援事業

ハコメンさんが専門的な支援への橋渡しを希望される場合には、本人の要望があれば、支援機関への連絡や同行を行った。また市内の着物教室から振袖着付けの練習モデル募集依頼を受け、希望したハコメンさんを着付け会場まで引率し見守りを行った。

⑤自立生活支援事業（学習支援、医療機関受診支援、就労支援）

生活保護等福祉施策の紹介や行政機関への同行を行った。また自由学校『遊』の講座をきっかけとしてビックイシューさっぽろが主催する「夜のパン屋さん☆札幌」と繋がり、パン販売員募集についてハコメンさんに周知し、希望者には当日現地まで同行し、仕事内容を一緒に体験しつつ見守りを行った。

(2) 啓発事業・アウトリーチ活動

①アウトリーチ

- X、Instagram、ホームページを通じてハコの存在を周知した。

2025 年度総会資料

- すでにつながっている方々とのやり取り、相談のツールとして LINE を活用した。
- シーズ南平岸（自立援助ホーム）の OG には、誕生日カードと年賀状を送って、関係継続に努めた。

②広報

- 8 月と 1 月にニューズレターを発行し、会員・寄付を下さった方々・各関係機関その他支援者に配布した（約 300 部）。
- CAN の支援活動についての言語化と発信を目的とするブックレット作成に向け、今年度も協議を重ねた。
- HP、Instagram、X でピッケノハコの活動の様子や寄贈していただいたことを逐次発信した。

③アドヴォカシー

- 招きに応じ、講座、シンポジウムに積極的に登壇し、若者支援、若年女性支援の現状を伝えた。（報告等を行った主な講座、シンポジウムは以下の通り）

7 月	さっぽろ自由学校遊「札幌貧困状況地図」	講師	札幌
11 月	子どもアドボカシーセンター札幌設立記念シンポジウム	シンポジスト	札幌

- 生活クラブ生協機関誌『生活と自治』、全国児童養護施設協議会 季刊『児童養護』で活動が紹介された。
- 「若者支援の難しさを言語化する検証会議」に委員として参加した。

④若年女性支援のスキルの言語化・可視化

- 2022 年 7 月に行った LiNK 事業振り返りシンポの内容を踏まえて 3 年間の本事業の歩みをまとめたものをブックレット等に作成する計画であったが、具体的な取り組みには至らなかった。

⑤その他

- 北海道新聞、NHK、全国児童養護施設協議会の取材を受けた。
- 京都の大谷大学の研究者より、若者のシェルターを運営している団体としてヒアリングを受けた。
- 北海道札幌国際情報高等学校の総合学習の授業に関わる取組として、「若年女性の貧困問題」に関心をもつ生徒からヒアリングを受けた。
- NPO 法人ドットジェイピー北海道支部の依頼を受け、インターンシップとして学生を 3 名受け入れた。
インターンシップの方にはピッケノハコに来ていただき居場所の日常を見学していただき、またクラウドイ・キッチンでの食料配布を体験していただいた。

	クラウドイ・キッチン	クラウドイ・キャンパス	関係者会議	関係機関によるハコ見学	関係機関見学
2024 年度	12	2	10	6	0
2023 年度	12	2	10	15	4
2022 年度	10	2	4	15	3

- * 関係者会議は、札幌市子ども・若者支援地域協議会、クラウドイ・キッチン、若者支援検証会議など
- * 見学にいらした関係機関は、自立援助ホーム、夜間学校、札幌市自立支援コーディネーター、札幌市議、相談支援事業所、研究者など

(3) ネットワーク強化

- 若年女性支援や社会的養護自立支援に必要な関係者会議、研修に積極的に参画した。
- さっぽろ若年女性支援ネットワーク「Cloudy」の活動として、月に一度の食料品・日用品配布に参加し、共同で研修を行った。

2025 年度総会資料

- 保健センター、高校、病院、家庭児童相談室、社会的養護自立支援コーディネーターや地域の相談先等からケースの照会や相談を受けた。
- 若者（支援）の難しさを言語化する検証委員会委員の委嘱を受け（3年目）、会議・中間報告会に参加した。
- 札幌レインボープライドに際し、Cloudy としてブース出展した。
- チームまる（社会的養護アフターケア支援チーム）と協働でクリスマス会を行ったほか、チームまる主催のイベントの周知に協力した。
- アフターケア支援の情報交換会に出席し、関係団体との連携を深めた。（おちやのま so-縁、活動協会、ギルドケア、チームまる、ねっこぼっこのいえ、ブリッジフォースマイル、自立援助ホーム、養護教諭、大学教員等）

(4) スタッフ養成事業・組織的財政的基盤強化

①スタッフ養成事業

- 支援やアフターケアに必要な社会的・専門的知識を獲得する機会を設けるため、月に一度、スタッフミーティングにスーパーバイザーを招き、事例対応について助言を受けた。
- 支援の向上や他の機関等との連携を深めるため、研修会などへ積極的に参加した。スタッフが受講した主な研修等については以下の通り。

月	内容（CANからの参加人数）
5 月	・ たけゆみ塾（1 名） ・ さっぽろ自由学校「遊」札幌貧困状況地図「夜のパン屋さん」（1 名） ・ 社会的養育・アフターケア情報交換会（1 名） ・ レラピリカ「のんの」開設 10 周年記念シンポジウム（2 名）
6 月	・ たけゆみ塾（1 名） ・ さっぽろ自由学校「遊」札幌貧困状況地図第二回 豊平教会（1 名）
7 月	・ つきさっぷを編む 学習会①（1 名） ・ ケアリーバーの支援を考える（1 名）
9 月	・ 全国若者自立支援プロジェクト（1 名） ・ つきさっぷを編む学習会②（2 名） ・ 反貧困ネット学習会『子どもと女性の暮らしと貧困』（3 名） ・ たけゆみ塾（1 名）
10 月	・ アドボイト養成講座（2 名）
11 月	・ 子どもアドボカシーセンター札幌設立記念シンポジウム（3 名） ・ 骨盤底ケア講演会（1 名） ・ つきさっぷを編む 講演会（1 名）
12 月	・ 子どもの権利を考える（2 名） ・ 三〇一会館リリース記念講話（2 名）
3 月	・ 女性支援モデルを考える意見交換会（1 名）

②事務局体制

事務局長のほか、常勤、非常勤スタッフ各 1 名が事務局業務を兼任した。必要に応じ、他のスタッフ・理事が

2025 年度総会資料

補佐をした。事務局はニューズレターの印刷・発行、スタッフの労務管理、スケジュール管理、会計業務、助成金管理、会員管理、取材対応などを行い、事業運営の円滑化に努めた。

③コンプライアンス体制

理事会は、コンプライアンス委員を委嘱し、内部通報体制を整えた。

④ 財政的基盤強化

活動を実施するにあたり、以下の助成金を獲得・活用することができた。

赤い羽根共同募金助成金（事務用品等購入）
公益財団法人さわか福祉財団 地域助け合い基金（クラウド・キッチン）
NPO 法人ツルハ医療・介護サービス協会 地域支援活動団体に対する奨励金

(5) LiNK 事業

今年度 LiNK 事業関係では合計 23 名の方に下記支援を行った。実施について、札幌市、活動協会と毎月一回月次報告会を行い、事業の適正運営に努めた。

	電話	メール	LINE	ビッケノハコ 来訪	訪問	同行	出張相談	関係機関
2024 年度	102	11	155	115	9	11	14	213
(実人数)	(9)	(1)	(13)	(7)	(3)	(8)	(11)	

※前年度以前に LiNK 事業につながった方のアフターフォロー含む。

① LiNK 居場所提供

年末年始と毎週木曜日を除く毎日(16:00～18:00)ホットラインの対応をし、必要に応じて希望者との面談、CAN のシェルター（ヒミツノハコ）への宿泊対応を行った。また、利用者の状況に応じて協力団体（女のスペース・おん、JOIN、ブリッジフォースマイル、WHO CARES 等）のシェルター紹介、入居調整等も行った。ヒミツノハコ宿泊期間については以下の通り。

ヒミツノハコ宿泊期間（23 名中 6 名が利用）

1 泊	2 泊	3 泊	4 泊
4 名	1 名	0 名	1 名

※このほか、ヒミツノハコを経ずに協力団体のシェルター入居が 3 件あった。

②LiNK 自立支援

ヒミツノハコおよび協力団体のシェルター利用中の面談、シェルター利用後の自立支援として関係機関同行や住居確保の支援等を行った。今年度の支援件数については以下の通り。

シェルター紹介	協力団体のシェルター訪問	自立支援会議	一般賃貸住宅入居調整	支援機関紹介	就労・修学調整	生活保護申請援助
6	1	5	1	5	0	2

※このほか、相談、面談のみの方が 6 名。

2025 年度総会資料

LiNK で関わったあとの居住場所（居住場所が決まったあとも、自立支援を継続しているケースも含む）

一般賃貸住宅	自立援助ホーム	女性援助センター	グループホーム	それまでの居住場所
3	0	0	0	11

③LiNK アウトリーチ

- すすきの夜回り：月に一度のペースで、すすきのを中心とし中島公園エリアから札幌駅周辺エリアにかけて夜回りを行った。主に、LiNK という相談ツールがあることを周知することに主眼をおいて声かけを行い、「LiNK カード」とともにプチコスメなど、ささやかなプレゼントを渡し、可能であればその場で何か困りごとはないか、相談できる相手がいるかなど対話を心掛けた。
- SNS パトロール：毎週木曜日 18 時から 20 時まで、X 上で「パパ活」と思われる発信をしているアカウントや「死にたい」「家を出たい」などつぶやいているアカウントにダイレクトメッセージを送り、相談先を知らせた。毎回 30～40 件の発信に対し、1～2 件の反応がある。またダイレクトメッセージ送信後すぐには反応がなくても、数カ月たってから相談が入ったケースもあった。

今年度の実施回数

SNS パトロール	すすきの夜回り
49 回	12 回

④LiNK アフターフォロー

LiNK 事業開始当初から継続的につながりを持っている方々へのアフターフォローとして、必要に応じて連絡を取り、ピッケノハコの利用や自宅への訪問や行政機関への同行等を通してやりとりを行った。

以上